

東京藝術大学大学院 音楽研究科 生田流箏曲 博士後期課程

福田恭子 学位審査演奏会

一. 琴の栄 (山口巖作曲)

箏 福田恭子
箏 平野裕子(手事 六段の調(初段))

二. 鉄輪 (尾州某作曲 山口巖 三絃替手手付)

三絃 替手 福田恭子
三絃 本手 岡村慎太郎

三. 高千穂 (山口巖作曲)

箏 替手 福田恭子
箏 本手 日原暢子

四. 四季の寿 (幾山檢校作曲 山口巖 三絃替手手付)

箏 平田紀子
三絃 替手 福田恭子
三絃 本手 平野裕子

賛助出演

平野裕子(箏・三絃)
岡村慎太郎(三絃)
平田紀子(箏)
日原暢子(箏)

平成 28年 2月 9日(火)

開演 18:30 (開場 18:00)

場所 東京藝術大学
音楽学部構内
第6ホール ※入場無料

お問い合わせ 福田恭子 電話番号 070-6928-1270
メールアドレス yasukofukuda.koto@gmail.com

博士論文研究テーマについて

研究題目

「山口巖の生涯 — 箏曲界に与えた影響とその業績 —」

山口巖(1867-1937)は、生田流箏曲を京都から東京へ広め、生涯にわたり、箏曲の伝承や指導に献身した人物です。京都生まれ、京都盲啞院に音曲教育(箏・三絃・胡弓・唱歌などの音楽教育)が創始された際に、第1期生として入学し、生徒時代は、優秀な成績を取めました。卒業後も母校盲啞院の助手や教員を務め、明治44年(1911)には、東京藝術大学の前身である東京音楽学校の講師となり、生田流箏曲の教授に大きく貢献しました。

山口は、演奏活動のみならず、現在も使用され続けている【巾柱(蔭柱)】の開発、【四穴(調子笛の一種)】の改良、京都盲啞院では、【箏曲の点字楽譜】の発案を行い、箏曲界に大きな影響を与え、価値ある業績を残しました。また、東京では、ラジオ放送でも活躍し、箏曲楽譜の出版会社、博信堂と大日本家庭音楽会の【責任校閲者】となり、京都の生田流を代表する箏曲演奏家として名を知られる人物でした。そして、邦楽雑誌『三曲』には、箏曲に関する研究や、箏の弾き方などの基礎知識をはじめ、伝統の保存と箏曲の普及に尽力した山口巖の多くの記事が残されています。

山口の楽曲は約46曲であり、先人たちへの敬意が込められた作品や、後進の指導のための手ほどき曲に加え、天皇即位を奉祝した作曲も残しています。また、楽曲には手付け作品もあり、箏・三絃ともに替手手付け曲を多く作曲しています。

第一回博士リサイタルでは、山口巖を研究する経緯を辿ることをテーマにし、第二回博士リサイタルでは、既存の曲に山口が手付けした楽曲を中心としたプログラムでした。今回の学位審査演奏会では、山口が作曲した楽曲と、既存の曲に三絃替手手付けをした曲で構成し、すべてのプログラムで山口の作品を演奏します。

《琴の栄》は、八橋検校と生田検校の偉業を称えた和歌を山口が自ら詠み、作曲された楽曲であり、手事は《六段の調》の初段と合わせられるように手付けされています。

《鉄輪》は、もともと作曲された三絃に対して、山口が三絃替手の手付けを作曲し、今回は、三絃同士の演奏を披露します。

《高千穂》は、箏本手替手の楽曲で、明治新曲らしい明るく派手な手付けが際立つ楽曲です。

《四季の寿》は、箏・三絃ともに、山口が生徒時代であった頃、京都盲啞院で箏曲指導を行っていた幾山検校の楽曲です。山口と幾山が盲啞院時代に共演していた演奏の記録が現在でも残っており、この楽曲に山口が三絃替手を加えたことも、深い関わりがあったことを感じさせます。

山口巖の生涯と、その多くの業績を博士論文に記したことで、箏曲界にその名を広めることを目標とし、学位審査演奏会を通して、山口の作曲の特徴を伝え、博士課程における研究の成果としての演奏披露を目指します。



福田恭子(ふくだやすこ)プロフィール

岡山県出身。7歳より箏、16歳より三絃を習い始める。

平成23年 東京藝術大学 邦楽科 生田流箏曲 卒業。卒業生代表として皇居内桃華楽堂にて催された皇后陛下主催演奏会にて御前演奏。

平成25年 東京藝術大学大学院 音楽研究科 生田流箏曲 修士課程 修了。

現在、同大学大学院 音楽研究科 生田流箏曲 博士後期課程3年 在学中。

会場のご案内 〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8

【JR】上野駅・鶯谷駅 下車徒歩10分

【地下鉄】銀座線・日比谷線上野駅 下車徒歩15分
千代田線・根津駅 下車 徒歩10分

【京成電鉄】京成上野駅 下車徒歩15分

【台東区循環バス】東西めぐりん東京芸術大学バス停 下車すぐ

【都営バス】上26系統(亀戸⇄上野公園)
谷中バス停 下車徒歩3分



※色の濃い部分が上野公園です。